

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	九州ルーテル学院大学
設置者名	学校法人九州ルーテル学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
人文学部	人文学科 キャリア・イングリッシュ専攻	夜・ 通信	39	0	22	61	13	
	人文学科 保育・幼児教育専攻	夜・ 通信			40	79	13	
	人文学科 児童教育専攻	夜・ 通信			87	126	13	
	心理臨床学科	夜・ 通信			104	143	13	
(備考) ※2026 年度シラバスに基づいて記載								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/kamokuichiran2026.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由) 該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	九州ルーテル学院大学
設置者名	学校法人九州ルーテル学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

(学院ホームページに掲載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/trustees-councilors2026_4.php
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	社会福祉法人慈愛園 理事長	2025年4月22日 ～選任後4年以 内に終了する会 計年度のうち、最 終のものに関す る定時評議員会 の終結の時	経営・運営の助言及 び監査等
非常勤	日本福音ルーテル熊 本教会・玉名教会・八 代教会 牧師	前任者の残任期 間である2026年 4月1日～2029年 4月1日以後最初 に招集される定 時評議員会の終 結の時まで	経営・運営の助言及 び監査等
非常勤	大学・短期大学同窓会 (結会) 役員	2025年4月22日 ～選任後4年以 内に終了する会 計年度のうち、最 終のものに関す る定時評議員会 の終結の時	経営・運営の助言及 び監査等
非常勤	ルーテル学院・九州女 学院同窓会(のいばら 会) 会長	2025年4月22日 ～選任後4年以 内に終了する会 計年度のうち、最 終のものに関す る定時評議員会 の終結の時	経営・運営の助言及 び監査等
非常勤	株式会社寺原自動車 学校代表取締役社長	2025年4月22日 ～選任後4年以 内に終了する会 計年度のうち、最 終のものに関す る定時評議員会 の終結の時	経営・運営の助言及 び監査等
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	九州ルーテル学院大学
設置者名	学校法人九州ルーテル学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・シラバス作成にあたっては「シラバス作成・授業実践ガイド」に基づき作成することとしており、主に以下の内容を記載することを求めている。 ①授業の実施方法と内容、②到達目標、③事前・事後学修の進め方、④評価方法・基準の明示、⑤アクティブ・ラーニングの実施方法、⑥ナンバリング、⑦ディプロマ・ポリシーとの関連、⑧ICT活用、⑨「実務経験を活かした授業」に関する記述、⑩試験実施及びフィードバックの方法、⑪オープンな教育リソースの活用、⑫テキスト、⑬参考図書、⑭履修の留意事項、⑮授業内容とSDGs（持続可能な開発目標）の関連 ・作成されたシラバスは、「シラバス・セルフ・チェックシート」を用い、授業担当者自らが点検を行った後、大学内のシラバスチェック担当者（教務委員長・各学科長、各専攻主任）による第三者チェックを実施し、「シラバスチェック実施管理表」の確認を経て、完成としている。 ・シラバスの公開は「学生向けポータルサイト」「大学ホームページの情報公開」により3月末に公開している。	
授業計画書の公表方法	学内向けポータルサイト https://portalsystem.klc.ac.jp/ 大学ホームページ https://portalsystem.klc.ac.jp/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EU&opi=mt0010

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

- ・学則第 17 条（成績評定）及び成績評定規程において、授業時間数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、評定の対象から除外することを定めており、学修意欲が見込めない場合には単位を認めないことを明記している。
- ・各授業のシラバスにおいて、「主体性・多様性・協働性」の項目を設定し、授業への積極的な参加を測定し評定とすることを記載しており、学習意欲の向上を図る取組を行っている。
- ・学修成果の評価方法等については、「シラバス作成・授業実践ガイド」において、①評価方法、②評価の割合、③評価の観点を示すよう求めている。
- ・成績の取扱いに関して、教員と学生の相互理解を推進することを目的として、学生からの成績に関する異議申し立てを行う機会を設けている。
- ・卒業論文については 4 年次必修科目「卒業研究」を設けており、評価にあたっては、「ルーブリック評価」を行っている。また、3 年次必修科目として後期に「特別研究」を設定している。「特別研究」は 3 年前期終了時に 80 単位取得できていることを条件としており、「九州ルーテル学院大学における教育の質保証に関する規程」において規定している。

2023 年度入学生より、全学部において GPA を活用した進級判定も導入しており、同様に「九州ルーテル学院大学における教育の質保証に関する規程」において規定している。

【GPA 制度に関する規程：第 3 条 本学で定める成績評価、GP 及び評価】

段階	標語	点数	GP	評価	評価の説明
1	A+	95-100	4.00	秀	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている
2	A-	90-94	3.85		
3	B+	87-89	3.70		
4	B	83-86	3.30	優	到達目標を十分に達成している
5	B-	80-82	3.00		
6	C+	77-79	2.70		
7	C	73-76	2.30	良	到達目標を達成している
8	C-	70-72	2.00		
9	D+	67-69	1.70		
10	D	63-66	1.30	可	到達目標を最低限度達成している
11	D-	60-62	1.00		
12	N	0-59	0.00	不可	到達目標を達成できなかったためさらに学習が必要である
合格	Q	—	—	合格	点数で評価できない科目は、合格か不合格で評価する
不合格	NC	—	—	不合格	
未受験及び失格	S	—	0.00	失格	評価の要件を満たしていない

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- ・成績評価の方法は「成績評定規程」に基づき、秀・優・良・可・不可の5段階で評価するとともに、「九州ルーテル学院大学 GPA 制度に関する規程」「九州ルーテル学院大学における教育の質保証に関する規程」を設け、各学年の年度末の成績について、修得単位数及びGPAによる評価を行い、修学の指導・支援の対象とすることを定めている。
- ・GPAは、各授業科目5段階の成績評価に対応して、4～0のグレードポイントを付与して算出する1単位当たりのポイント値を用いている。

(※GPA制度に関する規程第3条参照)

- ・GPAは各学期終了後、学生に配布する成績通知書にて通知している。
また、各学科、専攻毎にGPAの分布の分析を行い、学内の学生支援懇談会において教職員に情報を共有し、学生指導に活用している。なお、GPAによる成績評価については、2021年度入学生より12段階のGPA評価を用いてよりきめ細やかな指導が行えるよう改善し運用している。同資料は、本学ホームページにて「GPA分布」を公開している。

<計算式>

$$\text{GPA} = \frac{[(\text{科目の単位数}) \times (\text{成績評価グレードポイント})] \text{の総和}}{\text{登録科目の総単位数 (不合格科目の単位を含む)}}$$

※成績評価が点数によらない以下の科目及び未入力又は保留の授業科目については、GPAの対象から除く。(GPA制度に関する規程 第5条第3項)

- (1) 合格か不合格かのみを判定する授業科目
- (2) 編入学又は転入学した際の単位認定科目
- (3) 本学入学前に修得した単位認定科目

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大学ホームページ(<https://www.klc.ac.jp/>)

① 成績評定規程

https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/info/regulation/9_seisekihyotei_202504.pdf

② 九州ルーテル学院大学 GPA 制度に関する規程

https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/info/regulation/10-2_gpa.pdf

③ 九州ルーテル学院大学における教育の質保証に関する規程

https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/11-3_kyoikunositsu-hosho_2026.pdf

④ GPA 分布

<https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/gapbunpu2026.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) • 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を学部全体及び学科毎に定め、大学ホームページ、学校案内等において公表している。 • 学則に規定する卒業要件の審査は、履修規程及び学位規程に則り、卒業判定会議において一人ひとりの卒業を認定している。 • 2018 年度より、卒業生に対してアンケート調査を実施しており、卒業する学生への教育効果の測定及び学生支援の満足度を把握し、本学の教育・学生支援を点検し、改善を図る取組を行っている。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	大学ホームページ(https://www.klc.ac.jp/) ①ディプロマ・ポリシー https://www.klc.ac.jp/academics/humanities-career_english/policy/ ②学位規程 https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/gakui.pdf ③履修規程 https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/hitsuyoutanni2026.pdf ④卒業生アンケート https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/sotsugyosei2025.pdf	

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	九州ルーテル学院大学
設置者名	学校法人九州ルーテル学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	(学院ホームページに記載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	(学院ホームページに記載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/
財産目録	(学院ホームページに記載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/
事業報告書	(学院ホームページに記載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Annual_Report_2025.pdf
監事による監査報告(書)	(学院ホームページに記載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 事業計画書	対象年度: 2026(令和8年度)	)
公表方法: (学院ホームページに記載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Annual_Plan_2026.pdf		
中長期計画(名称: 九州ルーテル学院 中期計画	対象年度: 第I期 2020~2024年度、第II期 2025~2029年度	)
公表方法: (学院ホームページに記載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Medium-term%20plan2025.pdf		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: (大学ホームページに記載) https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/Self_Assessment_College_2025.pdf
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.klc.ac.jp/about-us/info/juaa/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ）
（概要）九州ルーテル学院大学学則第 1 条（目的及び使命） 九州ルーテル学院大学（以下「本学」という。）は、キリスト教の精神を基盤にして、教育基本法及び学校教育法の定めに則り、「感恩奉仕」の学風のもとに、深く専門の学芸を教育研究し、職業及び社会生活に必要な教育を施し、あわせて情操豊かで国際性に富む全人的な人間性を涵養し、もって広く福祉と社会・文化の向上に資する人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.klc.ac.jp/ https://www.klc.ac.jp/about-us/disclosure/college-school/）
（概要） 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） 卒業に必要な所定の単位を取得し、下記の資質・能力を修得した学生に学位を授与します。 (1) 学部 1. グローバルな視野を持って国内外の社会の動向に関心を持ち、多様性を尊重しながら、それぞれの専門領域で求められる知識・技能を身に付けることができる。 2. 修得した知識や技能をそれぞれの専門の領域における課題を解決するために生かすことができる。 3. 「感恩奉仕」の精神に基づき、他者を尊重し、他者のために自分が修得した能力を感謝の気持ちと共に主体的に還元できる。 1) 共通教育 1. グローバルな視野を持ち、多様な価値観を受け入れることができる力 2. 社会のさまざまな分野で活動できる知識やスキルを身に付ける力 3. 地域や社会の変化とニーズに対応できる力 (2) 人文学科 1) キャリア・イングリッシュ専攻 1. 国際社会や実務で通用する英語の 4 技能・5 領域を修得し、実践的で高度な英語コミュニケーション能力を身に付ける。「知識・技能」 ①英語の 4 技能・5 領域の修得 ②実践的で高度な英語コミュニケーション能力を身に付ける 2. 英語圏の社会・歴史・文化・言語・文学の各領域への理解を深め、国際的で学際的な視野を持つことができる。「思考力・判断力・表現力」 ①英語圏の社会・歴史・文化・言語・文学への深い理解を身に付ける ②国際的で学際的な視野が持てる 3. 社会の課題を自己に関わる問題として捉え、自国の文化だけでなく異文化も理解・尊重しながら、多様な人々と関わる協働性を身に付ける。「主体性・多様性・協働性」 ①社会の課題を自分事として捉え、自分の行動につなげることができる ②自分と異なる人や文化を尊重でき、多様な人々と関わるができる 4. 社会の出来事や課題に関心を持ち、大学で獲得した知識やスキルを活かしながら、必要な情報を収集・分析し、自ら課題を発見して解決策を提示することができる。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」 ①社会の出来事や課題に関心をもち、それを発信・説明することができる ②獲得した知識やスキルを活用し、課題解決につなげることができる

2) 保育・幼児教育専攻 1. 保育・幼児教育の考え方や理論を理解し、保育・幼児教育の現場に必要な専門的知識を身に付け、現場等で活用することができる。「知識・技能」 2. 保育・幼児教育の様々な研究法や技法について、実践を通して理解できる。「知識・技能」 3. 他者との協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し、課題解決を行うことができる。「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」 4. 多様な他者を理解、尊重し、他者と共生する社会の形成に向けて、国内外の社会動向に関心をもち、乳幼児理解の視点を生かしてアプローチすることができる。「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」 3) 児童教育専攻 1. 教育の基本、学校教育や学習指導のあり方を理解し、児童等の多様な教育的ニーズに応じた適切な配慮や指導を行うための知識等を身に付け、一人一人の児童等のよさや可能性を伸ばすことができる。「知識・技能」 2. 指導に関する基本的な技能を身に付けると共に、児童等の実態を多面的に把握し、様々な情報を効果的に活用しながら、適切に児童等を指導することができる。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」 3. 教育者としての使命・責任を理解し、児童等の将来や社会のために、チーム学校の構成員として他者と協働し、課題の解決に取り組むことができる。「知識・技能」「主体性・多様性・協働性」 4. 多くの実習やボランティア活動等を通して得られた経験を統合し、地域や児童等の多様な実態に相応しい指導計画を創造し、持続可能な社会の担い手を育成することができる。「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」 (3) 心理臨床学科 1. 人間理解・共感・回復力：人を「生物-心理-社会」モデルの視点で理解し、その人がもつ個別性と多様性を尊重することができる。自己理解を深めながら、自己とは異なる他者の苦悩や立場をありのままに理解することができる。そして、他者との関わりを通じて自己の心や感情を受けとめ、しなやかな心を取り戻し、自己に活力を与えることができる。「知識・技能」「主体性・多様性・協働性」 2. 分析・発信力：個人と社会の視点から、多様な手法を通して現象を調査・分析・考察し、発見された課題とその解決方法を適切に発信することができる。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」 3. 対応・判断力：他者との交流による学びや社会・世界動向を通して、現象を熟考・整理して課題を評価し、多様なアプローチを検討することができる。「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」 4. 倫理観：自己及び他者の基本的人権を尊重し、他者の利益と幸福に貢献することができる。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」	教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.klc.ac.jp/ https://www.klc.ac.jp/about-us/disclosure/college-school/
(概要) 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー） (1) 共通教育 1. 初年次教育領域 ①自ら課題を発見して思考・判断することができる ②適切な表現方法を身に付けている ③他者と共有・解決のための行動・発言をすることができる 2. キリスト教領域 ①人を尊重し、いのちを育んだり慈しんだりする態度を身に付けている ②キリスト教精神に基づいて真に平和な世界を創り出そうとする態度を身に付けている	

3. 教養コア領域

- ①地元地域や多様な文化・社会を理解して貢献しようとする態度を身に付けている

4. 一般教養領域

- ①社会を生き抜くために必要な教養を身に付けている（人文科学）
- ②社会を生き抜くために必要な教養を身に付けている（社会科学）
- ③社会を生き抜くために必要な教養を身に付けている（自然・情報科学）

5. 健康・スポーツ領域

- ①身体的な健康・安全に関する教養を身に付けている

6. 外国語領域

- ①外国語でコミュニケーションをとることができる

7. 体験学修領域

- ①社会や異文化で生活・活動するために必要な知識と技能を身に付けている

8. キャリア教育領域

- ①社会的・職業的自立を図るために必要な教養と態度を身に付けている

(2) 人文学科

1) キャリア・イングリッシュ専攻

○教育課程編成

1. グローバルにも活かせる英語力とビジネスリテラシー

高度な英語運用能力とグローバルな視野を持った学生を育成するために、少人数の習熟度別英語クラスを編成し、1、2 年次では英語の 4 技能・5 領域をバランスよく伸ばすために週 2～3 回の集中的な授業を行います。また、同時に英米社会を幅広く学ぶ科目やビジネスに関する理解と基礎知識に加え、我々の周りに溢れる様々なデータを適切に分析し可視化するスキルを学ぶためのデータサイエンス関連科目も開設します。3 年次からは、少人数ゼミと並行し、専攻内の 2 つのコースと関連する、より専門的で高度な科目群を開設し、学生の専門的知識やスキルを育みます。

■代表的な科目：「Advanced Communication English I～IV」「Communication English I～IV」「リーディング&ライティング演習 I～IV」「グローバルビジネス I～IV」「エアライン・ツーリズム講座」「データサイエンス応用」等

2. 知識の実践と体験学修

国内や海外の様々な出来事や動向に関心を持ったグローバル人材になるためには、修得した実践的な英語運用能力、異文化や社会についての知識、国内外のビジネスについての知識を実際の場面で実践することが必要です。さらに高度な英語コミュニケーション科目やビジネス系の科目、データサイエンス関連科目などで英語やビジネス、データサイエンススキルを磨き、企業等でのインターンシップ、小学校英語活動、教育実習、教育現場体験等の様々な体験学修を通じて知識と実践力の融合を図ります。

■代表的な科目：「スピーチ&ディベート I & II」「ビジネス・イングリッシュ I & II」「国際ビジネス論」「企業経営論」「プロジェクトデザイン I & II」「データ解析演習」「プログラミング応用」「小学校英語フィールドワーク」等

3. 多様性の理解と表現する力

グローバル化が進む現代では、異なった価値観や海外の文化に対して関心と理解を持ち、自己の意見を積極的に発言・発信できる力が必要となります。また 3、4 年次では、それまでに身に付けた専門知識やスキルを活かして、議論したり表現したりする双方向のコミュニケーションを高めるための授業や、学生自らが発見したテーマや課題について研究し、成果をプレゼンテーションできるようなゼミを行います。

■代表的な科目：「異文化理解 I & II」「Global Issues in English」「Cultural Comparisons」「Advanced English Project」「特別研究」「卒業研究」等

○学修方法

1. 少人数教育

英語教育において、入学時のプレイスメントにより、学生の英語力にふさわしいクラス編成を行い、ネイティブ英語教員による少人数クラスで英語 4 技能 5 領域をバランスよく伸ばします。その他の専門科目においても、少人数制を活かし、自己や他者に対

する理解を深め、異なる人々と建設的に関わる対人関係スキルを養います。

2. アクティブ・ラーニング

講義形式の授業を通じた知識の修得だけでなく、様々なテーマについてグループワークやディスカッションを行うことで、互いに学び合い、視野を広げ、多様性を育み、協働できる力を身に付けます。また、プレゼンテーションなど発表の場を多く設け、能動的に学び、自ら発信する力を伸ばします。学生が主体性を持って授業に参加することで、社会で役立つ様々なライフスキルも養います。

3. 体験学修

フィールドワーク：熊本県内での小学校において、アシスタント教員として英語指導ボランティア活動を行い、英語指導の実践的な指導スキルを身に付けます。連携機関における体験学修：ビジネス系の科目において、主に熊本県内の企業・NPO・行政との連携を活かしたインターンシップやサービ斯拉ーニングを実施、具体的な課題について学びながら、社会の仕組みを学びます。

4. 卒業研究

これまで学修した内容や特別研究での研究成果の集大成として卒業研究にまとめます。担当教員の指導を仰ぎながら、先行研究を踏まえた文研研究、フィールドワークやプロジェクト・ラーニングなどを通じて得た成果に基づく事例研究などを日本語または英語で卒業研究にまとめていきます。研究成果は卒業研究発表会で発表します。これらの過程を通じて、社会に必要なデータ収集・分析力、論理的思考力、プレゼンテーション力の向上を目指します。

2) 保育・幼児教育専攻

○教育課程編成

1. 保育・幼児教育の専門性と人間性

保育・幼児教育に携わる者の倫理観、専門職としてのモラル・人間性を培うために、1 年次より人格形成のための講義を計画的に取り入れ、保育者としての力量を高めます。また、1～4 年次生の教科を関連させ、学びの系統性を踏まえ、総合的な学修力を身に付けます。

■代表的な科目：1 年次「キリスト教Ⅰ・Ⅱ」「哲学」「教育原論」

2 年次「保育原理」「キリスト教と倫理」3 年次「キリスト教保育」「キリスト教と文学」

2. 保育・幼児教育における理論と実践の融合

大学で学んだ理論を実践に結びつける教科統合型の総合的な力を育成することにより、実習の質と内容の充実を図りながら、理論と実践を結びつける実践力の育成を目指します。2 年次以降に始まる保育実習、幼稚園教育実習前に関連科目を配置し、これまでの学びを基に、実際についての理解を深めるとともに、指導案作成、模擬保育等を通して実践的な力を身に付けます。

■代表的な科目：1 年次「保育内容(総論)」「こどもと言葉」「こどもと表現Ⅰ・Ⅱ」

2 年次「保育実習指導Ⅰ」「ルーテル系幼稚園等現場体験学修」「保育実習Ⅰ」

3 年次「保育実習指導Ⅱ」「幼稚園教育実習指導Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「幼稚園教育実習Ⅱ」

4 年次「子育て支援フィールドワーク」「異文化体験学修」等

3. 乳幼児理解と技能教科の充実・強化

乳幼児理解と保育・幼児教育に必要な表現（音楽・造形・身体・環境構成等）の基本的な知識と技能の向上を深めます。

■代表的な科目：1 年次「器楽Ⅰ・Ⅱ」「保育内容（表現Ⅰ・Ⅱ）」

2 年次「音楽表現Ⅰ」「保育内容の理解と方法Ⅰ・Ⅱ」「保育内容（健康）」

3 年次「音楽表現Ⅱ」「保育内容の理解と方法Ⅲ」を設置し、様々な表現方法を学び、実践します。

4 年次「音楽表現Ⅲ」

4. 研究的視点の醸成

3 年次後期から、それまでに身に付けた専門知識をもとにして、学生自らがテーマを設

定して取り組むゼミ形式の研究活動で課題に取り組みます。3 年次後期に「特別研究」、4 年次に「卒業研究」を配置し、それらを通して課題を探究し、考察します。

○学修方法

1. 初年次教育

初年次には、「フレッシュマン・ゼミⅡ」において、ノートの取り方やレジュメの作成方法などの学修の基本や発表、プレゼンテーションの仕方等の保育者になったときの基礎について学修します。

2. 基盤教育

保育・幼児教育に携わる者の倫理観・専門職としてのモラル・人間性を培うために、1 年次より共通教育科目を積極的に履修し学修します。

3. キャリア教育

保育者に求められる教養や職務を遂行するための基盤を学修します。すべての科目においてアクティブ・ラーニングを取り入れ、グループワークやディスカッション等を通して主体的に学修します。

4. 卒業研究

4 年間の学修の集大成として、自らたてた問いについて文献研究、調査、事例研究等の研究方法を用いて探究します。その成果を論文としてまとめ発表します。また、保育・幼児教育専攻ではその学修内容から研究論文の形式にこだわることなく、その他の発表形態でも認められます。

5. 特色ある教育

初年次においては保育者としての「人」としての教養教育を主とし、保育・幼児教育についての基礎的な学修をします。さらに、3 年次より 4 つのコースの特徴を取り入れた専門教育を配置し、レイト・スペシャライゼーション型の教育プログラムとして、学生が学びながら選択していくことを可能とします。また、国内外でのフィールドワークを通して理論と実践の往還を目的とした学修をします。

3) 児童教育専攻

○教育課程編成

1. 2 つの教員免許状カリキュラムの配置と取得

小学校教諭一種免許状を取得できるカリキュラムの配置を基盤として、これを基礎免許状とした特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）を取得できるカリキュラムを配置します。

2. 4 年間を貫く教師力向上のための体験及び実習

初年次から 4 年間を通して地域の多様な教育現場を知り、学校教育の実際から指導・支援についての理解を深め、実践力を身に付けるために、地域の学校の協力のもと、さまざまな現場体験や実習（「小学校教育実習」「特別支援学校教育実習」等）を行う機会を各学年において配置し、小学校及び特別支援学校の教師としての総合的な資質向上を目指します。

3. 確かな児童理解に基づいた指導力を育成する授業科目

いじめや不登校等、多様化する教育課題に対応できる実践的指導力を育成するため、児童理解に基づく児童等への指導、キャリア教育及び教育相談等の理論及び実践に関する科目を配置します。

4. 小学校教師としての指導力を高めるための授業科目の配置の工夫

各教科について小学校教諭一種免許状取得のために位置づけられた科目を教育実習の授業実践につながるよう初年次から 3 年次までの教育実習前までに関連科目を配置し、教科内容の理解を深めると共に、指導案の作成、模擬授業等により、ICT 等を活用した実践的な指導力を高められるようにします。

5. 多様なニーズの場での特別支援教育が実践できるための科目内容の工夫

特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）の科目においては、特別支援学校や特別支援学級における教育だけでなく、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童等に対する教育が実践できる内容を取り入れます。

6. 児童教育及び特別支援教育に関する課題の探究と考察

3 年次後期から、学生の希望により担当者を決め、テーマを設定して取り組むゼミ形式の研究活動「特別研究」（3 年次後期）及び「卒業研究」（4 年次通年）を配置し、児童教育及び特別支援教育に関する課題を探究し考察します。

○学修方法

1. 初年次教育

初年次には「フレッシュマン・ゼミⅡ」において、ICT を活用したレポートや図表、プレゼンテーションの作成等の学修の基本やグループワークにおけるコミュニケーション能力を身に付け、将来教壇に立った際の学級づくりのあり方についても学修します。

2. 基盤教育

社会の様々な諸課題を多面的に把握できる素地を形成するために、初年次から共通教育科目を積極的に履修し、人間の文化的・社会的活動と社会との関わり、心身の健康、人間の多様性、科学的な考え方に関して学修します。

3. キャリア教育

社会人として必要な見識や職務を遂行するために持つべき力を高め、教師という職業を志向する基盤を学修します。また、グループワークやディスカッション等を初年次から積極的に取り入れ、主体的に学び、他者の意見を適切に解釈できる力を育成すると共に、座学による学修と臨床的見地を往還させ、教師の社会的意義を理解します。

4. 卒業研究

文献研究、調査・実験研究、事例研究等の実証的な研究手法を用い、人間と社会における多様な現象について自ら立てた問いを探究し、その成果を論文として取りまとめ、発表します。これらを通じて、初年次から 4 年次までの学修で培った問題認識・解決能力、科学的手法を用いた分析力、論理的思考力、プレゼンテーション能力、他者と協働する力等を身に付けます。

5. 専門教育

初年次には学校教育の基礎的理解に関する科目と児童教育の基礎となる小学校教科に関する科目について学修します。2 年次には小学校教科の指導法を学び、教育方法等に関する基本的知識を身に付けます。さらに特別な支援を必要とする児童等の心理・生理・病理に関する科目を学び、多様な教育的ニーズに応じた指導・支援についての知識・技能を身に付けます。3 年次には ICT の具体的な活用、集団マネジメント力及び教育諸課題への対応等について学びを深めます。さらに、特別な支援を必要とする児童等の教育課程・指導法を学び、特別支援教育の視点に立った指導・支援を展開できる力を身に付け、小学校での教育実習を行います。4 年次には特別支援学校での教育実習を通して、個別の教育支援計画等に基づく指導・支援の重要性やその多様な教育方法について学修します。さらに学校現場を知り、小学校・特別支援学校等教師としての資質を高めるため、「教職実践演習」を学びます。

第一に、特別な支援が必要な児童等に適切な指導・支援ができる教師を養成するために「小学校教諭一種免許状に関する科目と特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）に関する科目」の履修を推奨します。

第二に、4 年間を通し、地域の小学校または特別支援学校での教育・支援活動に取り組み、日常の授業準備、指導や校務等を含む学校生活の流れや対応について学修します。特に教師が一人一人の児童等の実態を適切に把握し、授業のユニバーサルデザインをはじめとする多様な手立てを講じながら教育活動を展開していることを体感・体得します。

第三に、先進的学校の視察や教育行政担当者等による教育の実際に関する講話等を通して、グローバルな教育現場に対応できる国際理解力や地域の児童教育の実際や教育課題を総合的・客観的に把握する力を身に付けると共に、本学卒業生の現職教員との交流を通して卒業生との縦のつながりを強固にし、ネットワークを構築・活用した教育力を身に付けます。

(3) 心理臨床学科

○教育課程編成

1. 共通教育では、基本的には人・社会・自然科学分野の科目を幅広く学びます。さらに、心理学やソーシャルワークの専門的理解の土台を築くことを目指すため、心の理解、障害の理解、社会福祉に関係する制度や法律などに関わる科目、対人援助専門職に相応しい姿勢・態度を培う科目を用意しています。例えば、「人間と障害」「法学」「人権論」などです。
2. 専門教育では心理学とソーシャルワークの基本的な考え方を身に付けてもらうため、全員に1・2年次の心理学と精神保健福祉学の導入科目を必修としています。必修科目「心理臨床学の展開」では、教員の研究・実践活動、公認心理師・精神保健福祉士として働いている卒業生、その他一般企業に就職している卒業生の講話を聴く機会を設け、コースや進路の選択を後押ししています。また、学生が心の健康を保持していけるように、「認知行動療法」という科目でストレス対処の技法を学びます。専門分野への理解を深めながら自分の興味関心にあったコースを2年次に選択する制度をとっています。（レイト・スペシャライゼーション）。
3. 心理学コースの専門教育は、公認心理師の資格取得に必要な科目を履修・取得することを目指としています。医療・福祉・教育・司法・産業領域における心理学の各論の他「心理的アセスメント」や「心理学的支援法」などで心の健康や支援のあり方を学修します。これらを基本として「心理演習」で心理的支援が必要な方を支援につなぐ方法や他職種との連携のあり方や技術等を学び、「心理実習」を通して多様な場面で活かせる実践力を養います。
4. 人間科学コースでは、自分の興味・関心・ニーズにあわせて、人間の総理解につながる学びを自由にカスタマイズできます。一般企業への就職や心理・福祉の研究者を目指す学生のために、人間の心理や社会動向を定量的に計測する心理社会調査やデータ解析関連科目（例えば、「心理学研究法」や「心理学統計法」等）を系統的に配置し、その過程で社会調査士や認定心理士（心理調査）資格も取得できます。そして「人間科学研究実習」では、人間とその心に関する調査を企画して定量的・定性的に分析した成果を内外に報告するまでを体験して人間の持つ可能性と多様性への理解を深めます。
5. 精神保健福祉コースは、精神保健福祉士資格取得に必要な科目を履修・修得することを目指としています。資格取得に必要な科目（例えば、「精神保健福祉の原理」や「ソーシャルワーク実習」等）を通して、ソーシャルワークの視点で現代の精神保健福祉の課題とその解決方向について学び、ひとりひとりの心の健康を社会との関係として解釈し、心の健康を取り戻していくための知識と実践力を身に付けることができます。また、精神保健福祉士受験資格だけでなく、それを前提としたスクールソーシャルワーカーになるための科目（例えば、「学校ソーシャルワーク論」や「学校ソーシャルワーク実習」等）も用意し、医療・福祉・教育・司法・産業領域、および地域で幅広く活躍できる精神保健福祉士の養成を目指しています。

②学修方法

1. 知識・理解を深めるための講義

従来の講義だけでなく、アクティブ・ラーニングを導入し、学生と教員・学生同士が互いを活かし合える環境をつくり知識と理解を深めていきます。また、困難と付き合い地域で生活している障がいのある方や支援している方の声を聞き、ともに活動し語り合うことを通して体験と知識をつなぐ基本的姿勢を身に付けていきます。

2. 分析・発信力を高めるための実験・実習

心と社会との関係に基づく様々な現象の意味とその根拠を、心理テストや行動観察・統計ソフトを使用した分析などの実験・実習を通して、心理学の基礎的技能を修得し、データ収集・分析・評価の方法と、その結果を考察し発信する研究の方法について学びます。

3. 対応・判断力を高めるための演習・実習

多様な人々のニーズを深く理解し対応する技能（スキル）をカウンセラーやソーシャ

ルワーカーとして豊富な経験をもつ教員とともに実践的に高めていきます。また体験学修や心理・精神保健福祉の実習、他大学との交流や自治体等との連携・協力など様々な場所でのフィールドワークを通じて、現場や地域・そこにいる人々から学びます。

4. 卒業研究

学修の集大成として卒業研究を行います。文献研究、調査・実験研究、事例研究等の実証的な研究手法を用い、人間と社会における多様な現象について自ら立てた問いへの答えを探究し、その成果を論文やプレゼンテーションで発表します。これらの過程を通じて、学科の専門教育で培ったデータ収集力、科学的分析力、論理的思考力、プレゼンテーション力、他者と協働する力などを総合的に伸長します。

【全学科、専攻共通】

○学修課程・成果の評価

1. 各科目の成績評価：科目の到達目標に照らして学生の学修過程・成果を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の観点から評価したものを成績とし、優れた成績に集中しないよう厳格な評価を実施します。
2. 科目と学位授与方針での修得目標である資質・能力との関係を明示し、履修した科目の成績評価に基づいてその各資質・能力の学修到達度を可視化します。
3. 本学の修学ポートフォリオで学位授与方針に定めた資質・能力の学修到達度やその他の学修成果記録をもとに学生が資質・能力を自己評価・点検したり担当教員が面談で履修・学修指導をしたりして、学生の主体的な学びを促します。
4. 卒業研究は、授業の参加と研究への取り組み、卒業論文（課題設定・資料やデータ収集と分析・論文構成とテーマの考察、論理性、客観性・引用や参考文献と著作権法の遵守など）と卒業研究発表（プレゼンテーション）を評価し、評価観点別に到達度を基準化したルーブリックを用いて評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ <https://www.klc.ac.jp/>、募集要項）<https://www.klc.ac.jp/about-us/disclosure/college-school/>）

（概要）

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

学位授与の方針や教育課程編成・実施の方針を理解し、以下のような意欲・態度・資質を備えた人を学生として受け入れます。

（1）人文学科

1) キャリア・イングリッシュ専攻

①求める学生像

1. 英語に興味があり、英語力を伸ばしたい人、英語力やデータサイエンスの知識を活かした職種に就きたい人
2. ビジネス分野や持続可能な社会づくりに関心がある人
3. 異文化やグローバルな課題に関心があり、多様な環境で活躍したい人
4. 学ぶ意欲があり、異なる人々と関わりながら、社会で活躍するためのライフスキルを身に付けたい人
5. 英語教育（中・高教諭やこども英語教育）に関心がある人

②入学前までに身に付けておいてほしい力

1. 知能・技能

- ・高等学校までに共通して学ぶ教科・科目についてのバランスのとれた幅広い基礎学力と基本的生活習慣を身に付ける力
- ・基礎的な英語力に加え、高度な英語の学びや積極的なコミュニケーションへの意欲
- ・実用英語技能検定2級、GTEC930点レベルの英語力が望ましい

2. 思考力・判断力・表現力

- ・グローバルな問題に対する関心、多様性への理解と寛容な姿勢

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・自ら考えて行動する力、様々な活動に積極的に挑戦する意欲
- ・世界や持続可能な社会づくりへの興味・関心
- ・学んだことを活用し、他の人たちと協力して取り組む能力

2) 保育・幼児教育専攻

①求める学生像

1. 子どもと子育て家庭への支援力を持った保育者を目指す人
2. 保育・幼児教育に興味・関心をもって深く学び、専門的知識・技能を身に付け、将来保育者として活躍したい思いを持つ人
3. 子どもを取り巻く世界や文化、保育・幼児教育に関心を持ちその成長を支援したい人

②入学前までに身に付けておいてほしい力

1. 知識・技能
 - ・高等学校までに共通して学ぶ教科・科目についてのバランスのとれた幅広い基礎学力と基本的生活習慣を身に付ける力
2. 思考力・判断力・表現力
 - ・聴く、話す、読む、書く力、他者との良好な関係を構築するためのコミュニケーション能力
 - ・音楽等の文化活動
3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
 - ・他者の気持ちを理解し協働して活動することができる力

3) 児童教育専攻

①求める学生像

1. 優れた洞察力と豊かな個性・行動力を持った人
2. 教師を目指す上で十分な基礎学力を身に付けている人
3. 知識や技能を活用して課題を探究し、その解決に向けて考察できる人
4. 児童等の成長を喜び、将来、教師として児童等の教育に関わりたいという強い意志を持っている人
5. 豊かなコミュニケーション能力を持ち、多様な人々と協働して様々な問題に積極的に取り組める人
6. 教育に対する熱意と使命感を持っている人

②入学前までに身に付けておいてほしい力

1. 知識・技能
 - ・高等学校までに共通して学ぶ教科・科目についてのバランスのとれた幅広い基礎学力と基本的生活習慣を身に付ける力
2. 思考力・判断力・表現力
 - ・社会に幅広い関心を持ち、主体的に考えようとする態度や聴く、話す、読む、書く力、他者との良好な関係を構築するためのコミュニケーション力
3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
 - ・自分の考えを持ち、様々な活動への積極的な参加

(2) 心理臨床学科

①求める学生像

1. 人の心と行動、人と社会との関係について関心を持っている人
2. ひとりひとりがかけがえのない存在であるという考えに基づき、人間の尊厳に対して強い関心を持つ人
3. 心の問題・精神保健福祉・スクールソーシャルワーク・社会問題に関心を持っている人

②入学前までに身に付けておいてほしい力

1. 知識・技能
 - ・高等学校までに共通して学ぶ教科・科目についてのバランスのとれた幅広い基礎学力と基本的生活習慣を身に付ける力
2. 思考力・判断力・表現力
 - ・自分の考えを適切に伝えるとともに他者の意見に耳を傾けて共感する力
 - ・文章を読み解く力と論理的に思考・判断・表現する力
3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
 - ・多様な人々を理解・受容し、人々と協調しながら様々な活動に自分らしく取り組む態度

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページ <https://www.klc.ac.jp/> 情報公開
https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/2026/handbook_15-14.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3 人	－					3 人
人文学部	－	17 人	12 人	4 人	1 人	人	34 人
	－	人	人	人	人	人	人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	65 人	65 人

各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法：(大学ホームページに記載) https://www.klc.ac.jp/about-us/teachers/
------------------------------	---

c. F D (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)

FD・SD 委員会主催による「授業参観ウィーク」（年 1 回、1 週間の授業公開期間を設けて行う教員相互の授業参観）、FD 研修会（情報リテラシー研修会、障がいのある学生の修学支援に関する講演会）の他、学生による「授業評価アンケート」結果に基づく授業改善計画の策定と公開、教育・研究面で優れた成果を挙げた教員を表彰する「教育実践奨励賞」、「研究活動奨励賞」といった教育改革や研究への取り組みを助成する制度等により、教育内容・方法の改善を図り、教員の意欲の向上を図っている。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに
進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文学部	150 人	179 人	119.3%	600 人	698 人	116.3%	若干名 人	0 人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	150 人	179 人	119.3%	600 人	698 人	116.3%	若干名 人	0 人

(備考) 2026 年 4 月入学者 小数点第 2 位を四捨五入

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	170 人 (100%)	10 人 (5.9%)	142 人 (83.5%)	18 人 (10.6%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	170 人 (100%)	10 人 (5.9%)	142 人 (83.5%)	18 人 (10.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考) 2026 年 3 月卒業生の状況				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
人文学部	187 人 (100%)	163 人 (87.2%)	11 人 (5.9%)	13 人 (7.0%)	0 人 (0.0%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	187 人 (100%)	163 人 (87.2%)	11 人 (5.9%)	13 人 (7.0%)	0 人 (0.0%)
(備考) 2022 年度入学者の状況 小数点第 2 位を四捨五入					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) ・年間の授業科目は、前年度中に授業計画案を策定し、シラバスの作成を行う。 ・シラバス作成にあたっては「シラバス作成・授業実践ガイド」に基づき作成することとしており、主に以下の内容を記載することを求めている。 ①授業の実施方法と内容、②到達目標、③事前・事後学修の進め方、④評価方法・基準の明示、⑤アクティブ・ラーニングの実施方法、⑥ナンバリング、⑦ディプロマ・ポリシーとの関連、⑧ICT 活用、⑨「実務経験を活かした授業」に関する記述、⑩試験実施及びフィードバックの方法、⑪オープンな教育リソースの活用、⑫テキスト、⑬参考図書、⑭履修の留意事項に関する記述、⑮授業内容と SDGs (持続可能な開発目標) の関連 ・作成されたシラバスは、「シラバス・セルフ・チェックシート」を用い、授業担当者自らが点検を行った後、大学内のシラバスチェック担当者による第三者によるチェックを実施し「シラバスチェック実施管理表」の確認を経て、完成としている。 ・シラバスの公開は「学生向けポータルサイト」「大学ホームページの情報公開」により 3 月末に公開している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) ・学修の成果に係る評価は、「成績評定規程」に基づき、秀（90 点以上）、優（80 点以上－90 点未満）、良（70 点以上－80 点未満）、可（60 点以上－70 点未満）、不可（60 点未満）に分類し、評価を行う。 ・卒業にあたっては、卒業判定会議において履修規程及び学位規程に則り、一人ひとり卒業要件を点検している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文学部	人文学科	124 単位	㊥・無	49 単位
	心理臨床学科	124 単位	㊥・無	49 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：大学ホームページ（教育の質保証に関する規程） https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/11-3_kyoikunositsu-hosho_2026.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：大学ホームページ（学生調査報告） https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/gakuseichosa2025-1.pdf https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/gakuseichosa2025-2.pdf https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/gakuseichosa2025-3.pdf https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/gakuseichosa2025-4.pdf		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：（大学ホームページに記載） https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/gakuin-shisetsu2026.pdf

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
人文学部	人文学科	680,000 円	200,000 円	246,000 円	施設充実費、教育充実費
	心理臨床学科	680,000 円	200,000 円	246,000 円	施設充実費、教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 年 2 回、前期・後期の開始時期に全教職員で全学生の情報共有を行う『学生支援懇談会』

を開催している。この会は基礎疾患を持っている学生、気になる学生、欠席が目立つ学生などの情報を共有し、問題がある学生の早期発見、早期支援を行う仕組みである。また、障がい学生支援については、『障がい学生サポートセンター』及び『障がい学生サポートセンター運営委員会』を中心に支援内容を常に確認し、教授会等でも情報を共有し支援が必要な学生について合理的配慮を行っている。本学教員の協力のもと、サポートボランティア学生を募りパソコンテイク、ノートテイク等の支援方法を学び、支援ができる学生を養成している。現在では35名程の学生が支援学生として登録し、聴覚障がい学生や肢体不自由学生、その他障害のある学生への授業支援、移動支援等を行っている。さらに、各学科・学年ごとにクラスがあり、アドバイザーとして教員を配置しており、同じ教員が4年間アドバイザーとして学生ひとり一人に履修登録から学生生活、進路指導など細やかな指導も行う体制整備をしている。また、前年度より他機関連携も含めた学生のメンタルヘルスサポート、学業支援、生活支援の提供を目的として、キャンパスソーシャルワーカーを週1回配置している。このほか、本学独自の奨学金として、成績・品行・学生生活が特に優秀であり、かつ他の学生の模範となる者を対象に「九州ルーテル学院大学奨学金」制度を設けており、本学で修業する学生を奨励し、学生生活を支援している。

また、日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者である入学者又は在学採用（一次）申込者（多子世帯を含む）に対し、納入猶予申請書の提出をもって前期分授業料の徴収を7月下旬まで猶予する取組を実施している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

4月のオリエンテーションにおいて、2,3年次に進路希望調査を行い、その後学生支援課にて、学生全員と個別面談を実施している。面談の内容は学生生活全般の悩み、要望や進路についてのヒアリングを中心としている。また、3年次後期のスタート時には進路登録カードを提出させ、進路の分類を行っている。障がいのある学生に対しては、ハローワークをはじめとする関係機関と連携し、本人の希望や適性に合わせたサポートを行っている。学生個々の対応は、国家資格であるキャリアコンサルティング技能士2級有資格者の就職支援コーディネータと教職・保育支援センターが連携の上、アドバイザーやゼミ担当教員の協力を仰ぎ支援に注力している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

学生が入学時に提出する学生カードの記載事項及び、4月に全学生が受診する健康診断の結果等を学生支援課に所属する養護担当が把握し、必要と思われる支援や見守りを行っている。メンタル面での不調を訴える学生には、外部カウンセラー（公認心理師）による学内カウンセリングを設け、支援体制を整えている。カウンセリングは予約制で、メール等で申し込み、自由に相談できる環境を整えている。またアドバイザー（クラス担任教員）を置き、全教員が週1回のオフィスアワーを設定しており、学生生活全般においても気軽に教員にも相談しやすい環境の整備を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：（大学ホームページに記載）<https://www.klc.ac.jp/about-us/disclosure/college-school/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F143310111344
学校名 (〇〇大学 等)	九州ルーテル学院大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人九州ルーテル学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		247人（170）人	236人（158）人	－人（174）人
内 訳	第Ⅰ区分	58人	56人	
	(うち多子世帯)	(14人)	(14人)	
	第Ⅱ区分	30人	31人	
	(うち多子世帯)	(－人)	(－人)	
	第Ⅲ区分	23人	25人	
	(うち多子世帯)	(－人)	(－人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	38人	34人	
	区分外（多子世帯）	98人	90人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－人（0）人
合計（年間）				255人（174）人
(備考) 年間の括弧内の多子世帯の人数は前後期、前期のみ、後期のみ多子世帯に該当した数を合わせて算出しています。				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	-人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	-人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-人	人	人
計	13人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	-人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	-人	人	人
G P A等が下位4分の1	35人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	12人	人	人
計	38人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。